

令和7年度  
すくわくプログラム活動報告書  
(実施対象：2歳児クラス)

モニカ茗荷谷駅前園

M  nica

テーマ

## 自然と植物の共感性を育む

### 設定理由

1歳児より自然に興味のあった子どもたち。散歩先で花や実を見つけると「可愛いね」「綺麗だね」など感じたことを伝え、「何の花だろう」「これ何かな」と考える姿があった。園に持ち帰り、図鑑で調べ発見や気づきを喜んでいた。

給食食材への興味も強く、人参を水に入れ葉が伸びる様子にも興味を向け、優しく触れたり「おはよう」と挨拶をしたり、「大きくなれ」と声を掛けたりする姿もあった。

植物に触れる中で、自然や植物が身近な友だちのような気持ちが芽生えると感じたため。

### 対象クラス

2歳児クラス・11名

### 活動のねらい

植物の世話を通して、優しい気持ちや愛着を持つ

### 問 い

「どんなかたちかな」「さわってみよう」「なにみえた」

### 活動期間

令和7年11月～令和8年2月

### 活動回数

計4回

## 活動①

# 種の観察（興味を深める）

### 環境構成

場所：2歳児保育室

時間：10時30分～11時15分(15分ずつ)

1. 少人数(4グループに4・4・3) で、順番に行く。
2. 1グループ15分(トータル45分)
3. 集中して行えるようにセットアップする。(日常でも行える環境)
4. 種だけ見たり触れたりしてみる。(保育者はつぶやきを聞いてから問う)
5. 拡大鏡で見てみる。(保育者はつぶやきを聞いてから問う)
6. 「どうだった?」と感想を聞いてみる。

### 準備物

拡大鏡(3) | 拡大鏡を置く棚(1)

テーブル(1) | iPhone | iPad | PC

種(ラディッシュ・かぼちゃ・レタス・  
パンジー・スイートピー)

マイクروسコープ | ジョーロ | 土

プランター | 鉢 | 水 | ライトテーブル



## 子どもの姿

素材が活かされるように“暗い環境”を設置したが、驚きながらも興味を持ち活動に参加していた。種自体に興味を寄せ、様々な種類の種を見比べたり、並べたりしながら「大きい」「小さい」「中くらい」など大きさを言葉にしていた。拡大鏡を通して見ることで、そのものが大きくなることに気づき、驚くような姿もあった。種の表面の棘を「サボテン」と表現したり、小さい丸い種を「チョコボール」や「バナナの種」と身近なものに例えて表現していた。環境を暗く、少人数の活動にしたことで、集中して活動に取り組んでいた。種や拡大鏡は前から部屋に出していたため、使用方法なども理解して活動に取り組んでいたが、今回始めて出した“ライト”に興味を惹かれている姿も見られた。感想を聞くと、「楽しかった」「面白かった」「またやりたい」と言葉にしていた。



## 振り返り

日常の環境の一部にできていなかった“ライト”に意識を持っていった。拡大鏡の扱い方は分かっていたが、新しいものという認識がぬぐいきれていない。模様などの種自身の読み取りはなく、大小や中くらいなど形と大きさに対する言葉が多く出ていた。それぞれに種の形から連想するものの名前をあげていた。ライトを日常的に出し、普段から深く探究できる環境を設定するようにする。予想より種を集中して見ていたため種について深めていく。

## 活動① いろいろな種を見てみよう

R7.11月

散歩先で自然物を拾い集めることで満足していた姿から目で見えない部分への興味が変わっていた。保育者の「剥いてみる？」の問いに「何が入っているんだろう」から「種みたい」と変わり、水の中に入れると育つと言う感覚も持ち始めた。

身近な自然に触れ、植物の育つ過程や実や皮の内部を見てみたいという気持ちが芽生え、植物の育つきっかけとなり子どもたちの言葉にも多く出ていた種を観察することにした。



机に並べられた様々な種類の種に興味を持つ子どもたち。集中して活動に取り組んでいた。



様々な種類の種を見比べたり、並べたりしながら「大きい」「小さい」「中くらい」など大きさを言葉にしていた子どもたち。拡大鏡を通して見ることで、そのものが大きくなることに気づき、驚くような姿もあった。種の表面の棘を「サボテン」と表現したり、小さい丸い種を「チョコボール」や「バナナの種」と身近なものに例えて表現していたりしていた。環境を暗く、少人数の活動にしたことで、集中して活動に取り組んでいた。

## 活動②

# 種の観察（興味を深める）

### 環境構成

場所：廊下

時間：10時45分～11時30分(15分ずつ)

〈内容〉

1. 少人数(1グループ3人ずつ) で、順番に行く。
2. 1グループ15分(トータル45分)
3. 集中して行えるようにセットアップする。(日常でも行える環境)
4. 好きな種を選び、触れたり、拡大鏡で見してみる。  
(保育者はつぶやきを聞いてから問う)
5. 種は家庭にも呼びかけ、持参してもらった。

### 準備物

拡大鏡(3) | 拡大鏡を置く棚(1)

テーブル(1) | iPhone | iPad | PC

種(かぼちゃ・アボカド・りんご・柿・柚子)

スタンドライト(3)



## 子どもの姿

以前の反省点を活かし、ライトを保育室内でも使用したことで、ライトに気持ちがむくことは少なかったが、前回と同じ環境構成だったため、種の観察より、種や拡大鏡を使って遊ぶことが多くなっていた。ねらいを再確認し、子どもたちも保育者も楽しみながら行える内容を考えていく。保育室でも、じっくりと観察したり、興味が湧くような環境を整えたりしていく。



## 振り返り

以前の反省点を活かし、ライトを保育室内でも使用したことで、ライトに気持ちがむくことは少なかったが、前回と同じ環境構成だったため、種の観察より、種や拡大鏡を使って遊ぶことが多くなっていた。ねらいを再確認し、子どもたちも保育者も楽しみながら行える内容を考えていく。保育室でも、じっくりと観察したり、興味が湧くような環境を整えたりしていく。

活動② 種に違いはあるかな？ R7.12月

前回と同じ環境で行ない、家庭から持ってきていただいた種の観察をした。見慣れた種と初めて見る種を見比べて「これはなんのたね？」「おおきいね」「こっちはちいさい」と言葉で表現していた。



種の皮を剥き、色の違いに気づき、種にあった切り込みを見て「たねのなかみれるかな」「みてみたい」と内側にも注目して観察していた。皮を剥いた部分に変色し、拡大鏡で大きく見えたことで「たねがあかい」「ちみただね」と連想させていた。



前回の種の観察の様子の写真が壁に掲示してあったので、その写真と見比べる子もいた。また、家庭から持参した身近な素材もあつたことで種の存在をより身近に感じ、愛着を感じていた。



スタンドライトをテーブルの角に1台ずつ設置したことで、ライトに種を当てて観察をする姿も見られた。

## 活動③

# 植物の気持ちになり、愛着を育む

### 環境構成

場所：大部屋・オレンジ台

時間：10:00～10:45(各グループ15分ずつ)

〈内容〉

1. 少人数(1グループ3人ずつ)で、順番に行く。
2. 1グループ15分(トータル45分)
3. 集中して行えるようにセットアップする。  
(日常でも行える環境)
- 4.プランターや植木鉢の植物を見る、クレヨンで描く。  
(保育者はつぶやきを聞いてから問う)



### 準備物

白い布(5) | 突っ張り棒 | プロジェクター | スクリーン | ライトテーブル | パソコン(1) | クリップライト(3)  
クレヨン(こげ茶・茶・緑・黄緑) | 育てている植物の芽や葉を事前に撮影したもの

## 子どもの姿

数日前からオレンジ台で遊び、当日の環境に寄せるため前日にはオレンジ台を暗くして遊んだためか環境に慣れ、集中して活動に取り組んでいた。当日に水やりをし、プランターに意識を持っていった。植物を真剣な表情で観察する姿や、投影された写真と実物を比べてみようとする姿、ポトスやプランターの土や葉の色を見て「緑と白がある」「黄緑だよ」と色に注目したり、生長している芽の大きさや高さに気付いたりし、言葉にする姿があった。4色のクレヨンで環境の中に置き、自由に描けるよう模造紙を用紙すると、「葉っぱ描いてみたい」「描いてもいい?」「描きたい」「虫描くね」とクレヨンを手にし、描き出していた。葉を書き始めると、木や虫、枝、芽、種を植えるときに見たミミズなど連想を広げていった。

クレヨンは4色のみを準備していたが、クラスのクレヨンから黄色を持って来る子やその持ってきた色を見て「黄色使いたい」と黄色を使い描き始める子がいた。スクリーンの投影では、「大きい」と言葉にし、画像を変えた際に「あっこれ出てきた、描いてみる」と実際になぞりながら描く姿も見られた。クラスでも使用しているライトテーブルの上に葉を置くと、葉脈に気付き「模様ある」「虫が食べたのかも」と言葉にしていた。



## 振り返り

クレヨンは4色のみを準備していたが、クラスのクレヨンから黄色を持って来る子やその持ってきた色を見て「黄色使いたい」と黄色を使い描き始める子がいた。スクリーンの投影では、「大きい」と言葉にし、画像を変えた際に「あっこれ出てきた、描いてみる」と実際になぞりながら描く姿も見られた。クラスでも使用しているライトテーブルの上に葉を置くと、葉脈に気付き「模様ある」「虫が食べたのかも」と言葉にしていた。

### 活動③ 表現してみよう

R8.1月

観察を通して種に興味を持っていた子どもたち。その観察した種を実際に植えてみると、芽が出てきていた。出てきた芽を日々「大きくなった」と生長を喜びながら見つめる姿があった。

保育者が水をあげるのを見たり、子どもたちも順番に水をあげたりする中で、“お世話をしたい”という気持ちが強くなり、ままごとの水や皿を使って水をあげる子もいた。



ライトに照らされた植物や、クラスで育てているプランターを見て、木や虫、枝、芽、種を植えるときに見たミミズなど連想を広げていっていた子どもたち。

実際にクレヨンを使用して絵描き、表現していた。



環境に慣れたことで、植物を真剣な表情で観察する姿や、投影された写真と実物を比べてみよとする姿、ポトスやプランターの土や葉の色を見て「緑と白がある」「黄緑だよ」と色に注目したり、生長している芽の大きさや高さに気付いたりし、言葉にする姿があった。クレヨンと模造紙を環境の中に置くとクレヨンを手にし、描き出していた。

スクリーンの投影では、「大きい」と言葉にし、画像を変えた際に「あっこれ出てきた、描いてみる」と実際になぞりながら描く姿も見られた。

## 活動④

# 慣れ親しみ愛着を持った植物を表現する

### 環境構成

場所：大部屋・オレンジ台

時間：10:00～10:45(各グループ15分ずつ)

準備：白い布をつける、プロジェクター・スクリーンの設定

〈内容〉

1. 少人数(1グループ3人ずつ)で、順番に行く。
2. 1グループ15分(トータル45分)
3. 集中して行えるようにセットアップする。  
(日常でも行える環境)
4. プランターや植木鉢の植物を見る、自由に表現する。  
(保育者はつぶやきを聞いてから問う)

### 準備物

白い布(5) | 突っ張り棒 | プロジェクター | スクリーン | ライトテーブル | パソコン(1) | クリップライト(3)  
クレヨン(こげ茶・茶・緑・黄緑) | 事前に育てている植物の芽や葉の写真を撮っておく



## 子どもの姿

前回と同じ環境で行なった。活動当日にチューリップの花が咲いたこともあり、真っ先にチューリップの花を表現していた。スクリーンには今までの芽の生長の写真を写すと、目の前のものと比べて「おおきくなったね、おみずあげたもんね」と自分たちが育ててきたこと、水をあげたことによって生長したことを喜び合う姿も見られた。チューリップの色にも注目し、「あか」「オレンジ」「ピンク」と欲しい色のクレヨンで言葉にして伝える様子もあった。スクリーンに貼った模造紙に「おはなかくね」と言い、縦に真っすぐ描く姿や、チューリップの葉を見ながら黄緑・緑のクレヨンを使って思い切り表現する子もいた。



## 振り返り

植物の生長を喜びながら、その植物をクレヨンで描くことを楽しんでいた。育ててきたチューリップが花を咲かせたことも、子どもたちの中で大きな出来事だった。クレヨンの色から、植物ではないものを表現する姿が見られたが、保育者の声掛けによって表現してみようとする子もいた。



日々、水やりをしてきた子どもたち。芽の生長が分かり「おおきくなった」と喜んでいて。大きく生長した先になにがあるのか、考える姿も見られた。

この活動当日に、チューリップが花を咲かせた。子どもたちは、その花を見て「さいたね」「あかだ」「おみずあげたら、おはながさいたね」とみんなで喜び合う姿があった。喜びからか、自然と花を描く子が多く、「チューリップはあかだね」「でもオレンジもある」とクレヨンの色を選びながら描いていた。

スクリーンに映る芽の写真を見て「おなじはっば?」「ちいさいね」と生長していく様子を目で見て感じ、言葉にしてその思いを表現していた。

次はどんな花が咲くのか、それとも実が出来るのか。子どもたちの中で膨らむ期待と、“お世話をする、育てる”という気持ちが花開いた瞬間だった。



## 共有

- 家庭を巻き込んでいたのが良かった。
- 水あげに子どもの手のサイズの紙コップを使用していて良かった。
- 実際に種から葉になる経過を見られて良い経験だと思った。
- 種から何に興味を持った欲しいかを考えられていた。
- 子ども達の輝かしい表情を大事にしていた。
- 部屋の中でも植物が育つものだなと感じた。
- 子どもたちの意欲的に世話をする姿が印象的だった。
- 家庭との共有があって良かった。家庭への発信は大事。
- 保護者や保育者の「種と言わないで」という始まりが良かった。
- 目に見えて変化に気付き想像ができながらつなげていて良かった。
- 家庭でも育ててみようと思ったり、どの種にしようかなどやり取りも生まれそうと思った。
- クラスにある種のことを他の人に伝えたい気持ちが感じられた。
- 子どもたちの想像も豊かになって、経験の積み重ねがあってこそだと思った。
- 植物への「おはよう」の姿が印象的。植物との対話、気持ちを寄り添ってる生活の一部になっていた。
- 子どもたちから種の話を楽しそうにしていた。
- 日々の活動を通して保護者とポトス自分たちから黄色いクレヨンを使いたいという思いに寄り添っていてよかった。
- 自分たちが育てた植物に進級後も関わると良いと思った。

終



**株式会社モニカ**

〒105-0004  
東京都港区新橋1-9-5 KDX新橋駅前ビル 3F  
TEL:03-6661-2466  
FAX:03-6661-2467

**モニカ茗荷谷駅前園**

〒112-0002  
東京都文京区小石川5-3-2 エイト印刷ビル2階  
TEL:03-5615-8798  
FAX:03-5615-8799